

滋病防第91号
平成15年(2003年)9月9日

各関係機関の長 様

滋賀県病害虫防除所長
(公印省略)

病害虫発生予察情報(特殊報第1号)の送付について
このことについて下記のとおり発表したの送付します。

平成15年度 病害虫発生予察特殊報 第1号

平成15年(2003年)9月9日
滋 賀 県

1. 病害虫名：カキノヒメヨコバイ *Empoasca nipponica* Dworakowska
2. 作物名 カキ、ナシ
3. 発生経過
 - (1) 平成15年7月より滋賀県東近江地域のカキにおいて、葉縁部の壊死、新梢の枯死、芽の生育停止、成葉の退色等の症状が発生した。
 - (2) 8月に栗東市荒張、近江八幡市大中、八日市市沖野、伊吹町弥高でカキ、ナシに寄生していたヒメヨコバイ類を採集した。採集したヒメヨコバイ類は名古屋植物防疫所次席同定官 田中健治氏によりカキノヒメヨコバイであると同定された。
 - (3) 国内では、平成7年に岐阜県のカキで初めて本種による被害が確認され、その後、愛知県、静岡県、愛媛県、佐賀県、福岡県で発生が確認されている。
4. 形態
成虫は約3mmで全体に淡青緑色を帯びている。幼虫は羽化直後は乳白色であるが齢が進むと緑色を帯びる。
5. 生態
岐阜県の調査によると、ツバキ、サザンカ、サツキ、ツツジ等の常緑樹の葉裏で成虫越冬する。4月にカキの萌芽、展葉に伴い越冬成虫が飛来し、新芽に産卵し、11月まで4～6世代を繰り返す。
6. 被害の特徴
カキ：成幼虫の吸汁により葉縁部の壊死、新梢の枯死、芽の伸長停止、成葉の退色等の被害が発生する。被害が著しい場合は、樹体が枯死する。
ナシ：成幼虫の吸汁により新梢の葉縁部の巻きあがりおよび壊死が発生するが、新梢の枯死はみられない。
7. 防除対策
 - (1) カキ、ナシでは発生初期の防除が重要で、黄色粘着板により越冬成虫の園への飛来を確認したら防除する(表)。また、新葉が硬化するまでの4月～6月は重点的に防除を行う。それ以降は徒長枝が発生した場合等に適時防除を行う。
 - (2) 地域により発生時期等が異なるため、黄色粘着板により発生消長を把握し、適期防除につとめる。
 - (3) 薬剤の散布にあたっては、農薬登録内容を確認し、農薬使用基準の使用濃度や収穫前日数、使用回数を遵守する。

表 カキ、ナシの登録薬剤 (農薬登録は平成15年9月8日現在)

農薬名	作物名	使用濃度	収穫前日数	使用回数
モスピラン水溶剤	カキ	2000～4000倍	7日前	2回
	ナシ		14日前	2回
スプラサイド水和剤	カキ	1500倍	30日前	3回
オルトラン水和剤	カキ	1000倍	45日前	2回



成虫



幼虫



カキの被害葉

滋賀県病害虫情報NET

インターネットで見る病害虫情報

病害虫発生状況・今後の予報と解説などが
いつでもインターネットでご覧になれます

<http://kamome.jppn.ne.jp/ksig0301/>

滋賀県病害虫防除所

〒521-1301

滋賀県蒲生郡安土町大中516

TEL 0748-46-6160

0748-46-4926

FAX 0748-46-5559

果樹担当：滋賀県農業総合センター農業試験場花き果樹分場

担当：橋本

TEL 077-558-0221